

東奈良遺跡出土の埴

菱田 哲郎

茨木市史編さんの折、東奈良遺跡の77年度の調査で埴が出土していることを聞き、その埴などの資料を調査させていただいた。この資料はこれまで未報告であったが、資料の重要性を鑑み、紙面をいただいて報告することとした。

東奈良遺跡出土の埴は、図1-6に示したものであり、焼成は良好で青灰色を呈し、須恵器様の質感である。両面に同心円当て具痕が残り、縁部に沿ってナデを施している。側面はケズリ調整され、仕上がりは丁寧である。厚さは3.6～3.8cmを測る。同じ調査区の包含層からは、弥生土器に混じり7から8世紀の遺物が出土している。1は須恵器蓋、2は高杯脚部、3は杯身、4は高台杯の底部で、これらは7世紀中頃から8世紀初頭に属する。また、5は円面硯の脚と考えられる。

東奈良遺跡出土埴と同じ形状を呈するものとして、まず阿武山古墳出土埴が挙げられる。全体の形が知られるものでは長さ52.4cm、幅25.6cmであり、厚みは3.5～4.0cmに集中する。表面をなで消して仕上げるもののほか、同心円文当て具痕を残すものも多い。同種の埴は、初田1号墳や桑原西古墳群でも出土しており、初田1号墳で大きさのわかるものでは長さ51cm前後、幅25cm前後、厚み4.0cm弱であり、同心円当て具痕を残すことを含めて阿武山古墳の埴に近似する。さらに同種の埴は桑原西古墳群でも出土しており、その報告書では、他地域の埴とも比較したうえで、これら

3古墳の埴が酷似する様相を呈すると述べられている。このように、阿武山からその西麓にかけて分布する古墳に共通する埴が用いられていることに加えて、同種の埴が東奈良遺跡でも出土していることは、この埴がもつ政治性を物語っている。

阿武山古墳は、1934年（昭和9）に発見され、金糸や玉枕などとともに遺骸が漆塗りの木棺におさめられており、貴人の墓として注目を集めた。そして、『多武峯縁起』などの記載に合致することにより、藤原鎌足墓説が早くから唱えられてきた。もちろん、被葬者については中臣御食子説や阿倍氏説など、異論も出されてきたが、7世紀中葉の築造と考えると矛盾はなく、墓室の規模や金糸が示す冠の存在から、鎌足墓の可能性は高いと判断できる。そして、この東奈良遺跡出土埴は、その考えをさらに補強する材料となる。以下に紹介することにしよう。

藤原鎌足は、三嶋に別業を持っていたことが知られているが、その所在地について、茨木市沢良宜に比定する説がある。論者の吉川真司氏は、興福寺文書の『維摩会引付』所載の維摩会料を出す所領のうち、山城国宇治莊と摂津国草和良宜村が「不沽田」（地子などを徴収しない田）として記載されることから、前者を山科陶原の鎌足の家、後者を三嶋別業にあたりと考えた。草和良宜村が沢良宜村であることから東奈良遺跡がその所在地ということになる。今回紹介する埴が出土した場所

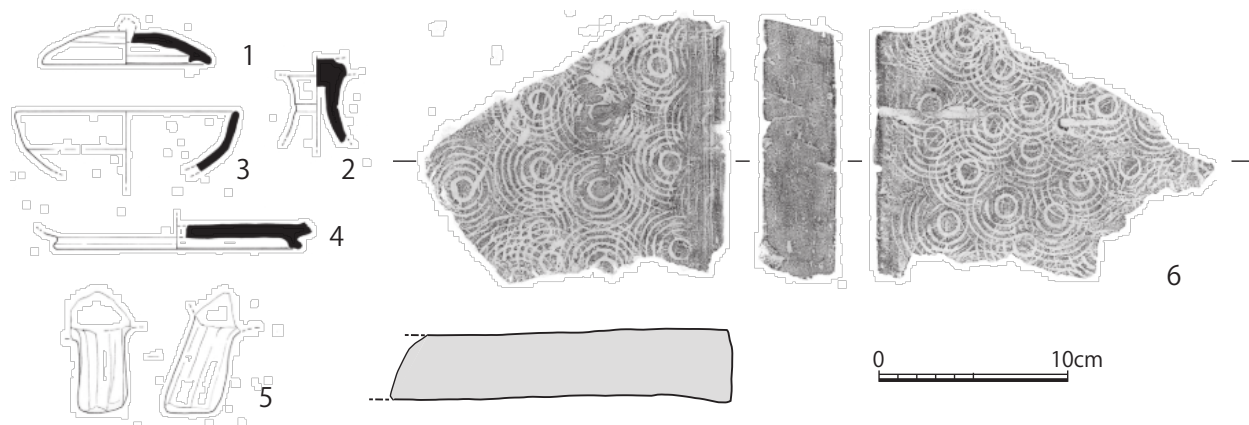


図1 東奈良遺跡 HN77-2 調査区出土埴と同調査区出土の土器類

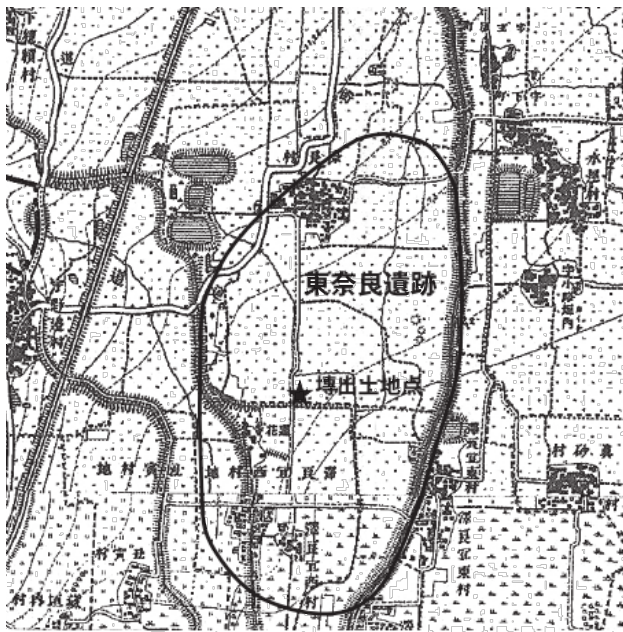


図2 東奈良遺跡の埴出土地点
(背景は仮製二万分一地形図を1/25000に縮小)

は、近世の沢良宜西村と奈良村の境界あたりであり、古代の草和良宜村に含まれている可能性は高い。また、埴とともに出土した土器の中には7世紀中葉に遡るものがあり、三島別業の時期にも接近している。いずれにしても、阿武山古墳と沢良宜の地が埴で結ばれることになり、鎌足の墓所と三島別業とをつなぐ糸が得られたとすることができる。したがって、東奈良遺跡での埴の発見は、この地が三嶋別業であることと、阿武山古墳が藤原鎌足墓であることの双方を裏付ける重要な意義をもつ。

東奈良遺跡は弥生時代の遺跡として著名であるが、古墳時代以降の遺構、遺物も多く発見されており、量は少ないものの飛鳥時代から奈良時代の遺物も発見されている。そして北に隣接する中条小学校遺跡では飛鳥時代から奈良時代にかけての掘立柱建物が多数発見されており、この時期の集落が営まれたと推測されている。このような周辺遺跡の動向も含め、三島別業やそれに関連する沢良宜庄の展開と関連づけて理解を進めることが必要である。東奈良遺跡の埴がどのように用いられたのかといった点は問題として残るが、円面硯をも出土する意味も含め、この遺跡についてさらに検討していきたい。

【参考文献】

榎木謙周 2012 「中臣（藤原）鎌足の別業と墓」『新修

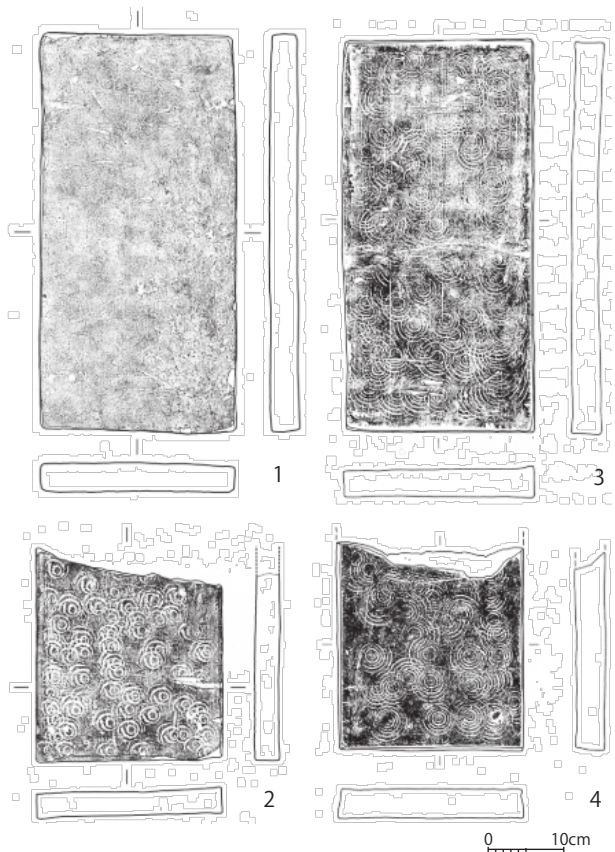


図3 阿武山古墳と初田1号墳の出土埴
(1, 2 : 阿武山古墳 3, 4 : 初田1号墳)

茨木市史』1巻、茨木市 pp. 466-480

森田克行 2012 「秘匿された鎌足墓」『阿武山古墳と牽牛子塚—飛鳥を生きた貴人たち—』高槻市立今城塚古代歴史館 pp. 102-111

吉川真司 2004 「安祥寺以前—山階寺に関する試論—」『安祥寺の研究 I—京都市山科区所在の平安時代初期の山林寺院—』京都大学大学院文学研究科 21 世紀 COE プログラム pp. 115-127

大阪府教育委員会 2007 『陶器遺跡・陶器千塚・陶器南遺跡—府営集落基盤整備事業「陶器北地区」に伴う発掘調査』同委員会

大阪府教育委員会 2008 『桑原遺跡安威川ダム建設事業に伴う桑原地区の調査』同委員会